

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	佐賀県多久市			代表者名	香月 正則
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	商工観光課	連絡先電話番号	0952-75-2117
担当者役職	商工観光係 係長	担当者氏名	吉永早苗	連絡先E-mail	
住所	846-0002 佐賀県多久市北多久町大字小侍7番地1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	ICT周遊型・高付加価値観光コンテンツ開発の支援事業		
概要	多久市における、ICTを活用した市内周遊型のイマーシブ体験コンテンツの企画・開発する。本事業は、儒学の聖地として知られる多久聖廟や、地域交流拠点「あいぱれっと」、さらに西溪公園や市内商店街などを舞台とした没入型の仕組みを導入することで、観光客の回遊性を高め、滞在時間の延伸と地域経済への波及効果を図ることを目的とする。				
支援を求める分野	計画策定支援 地域ビジネス 観光				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無	240K			
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年10月29日	講演(実地)	11時00分	18時00分	
			活動時間（分）	420	
2-2.	会場名	市役所会議室	最寄駅	中多久駅	
派遣場所	所在地	〒846-0002 佐賀県多久市北多久町大字小侍7-1	最寄駅からの交通手段	徒歩	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	細川 哲星
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	細川哲星アドバイザーは、マードーミステリーという体験型コンテンツを通じて、ICTを活用した市内周遊観光の可能性を参加者に直感的かつ実体験として示してくれた。講義に留まらず、実際に体験会「何度だって青い月に火を灯した」を主導し、参加者全員が没入型コンテンツの魅力を実感できた。また、多久市の地域資源（多久聖廟・西溪公園・商店街等）を活かした周遊型コンテンツ設計の具体的な方向性について、豊富な実践知識と全国事例をもとに丁寧かつ分かりやすく説明いただいた。体験後の意見交換では参加者の疑問や不安にも的確に答えていただき、地域関係者の理解と意欲を高める上で非常に有益であった。
アドバイザーへの要望事項	今後の事業化に向け、多久市の地域資源を活かした周遊型マードーミステリーの具体的なシナリオ作成や運営体制の構築についても引き続きご支援いただけますと幸いです。また、地域住民や観光事業者が主体的に運営できるよう、育成・研修の場についてもご助言をいただけますようお願い申し上げます。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	7人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	2	0	5	0
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果	事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい) 多久市は多久聖廟や西溪公園などの歴史・文化資源を有するが、観光客の多くは日帰り訪問であり、特定スポットへの集中が課題となっている。市内全域への回遊や夜間滞在につながる仕組みが十分に整っておらず、宿泊需要の拡大や地域経済への波及効果が限定的である。ICTを活用した新たな体験型コンテンツの開発が急務となっていた。				
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	ICTを活用した市内周遊型イマーシブ観光体験コンテンツの可能性を関係者が理解し、令和8年度の事業化に向けた計画策定の基盤を構築すること。また、体験会を通じて参加者がマードーミステリーの魅力と地域への応用可能性を実感し、観光協会・地域おこし協力隊・図書館等の関係者が自発的に連携する機運を醸成する。				

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	令和7年10月29日に多久市まちづくり交流センター「あいばれっと」において、細川哲星アドバイザーによる体験会「何度だって青い月に火を灯した」を実施した。商工観光課職員、地域おこし協力隊、観光協会、図書館長に加え佐賀県庁観光課も参加。体験後には意見交換を行い、多久市の地域資源を活用した周遊型マダーミステリーの事業化に向けた具体的な助言を受けた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	体験会を通じて、参加者全員がマダーミステリーというコンテンツの高い没入感とリピーター獲得力を体験として理解できた。また、多久聖廟や京町商店街などの地域スポットとの連携可能性について具体的なイメージが共有された。アンケートでは参加者の同僚・友人への推薦意向が高く、地域への導入に関心を示す意見も多数得られ、事業推進への合意形成が進んだ。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	①事業に係る計画書等を策定できた
	市内関係者を対象とした体験会を開催し、ICT周遊型・高付加価値観光コンテンツの意義と可能性に関する共通認識を形成した。令和8年度の事業化計画策定に向けた基礎資料として活用する。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	体験会で高い評価を得たものの、実際の周遊型マダーミステリーのシナリオ作成、運営主体の確立、必要な予算規模の算定については今後の課題として残っている。特に地域住民や事業者を巻き込んだ持続可能な運営体制の設計、および夜間コンテンツとしての安全管理の仕組みについては、引き続きアドバイザーの支援を要する。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	体験会参加者6名を対象にGoogleフォームでアンケートを実施。同僚への推薦度平均8.7点、友人への推薦度平均8.5点(10点満点)と高評価。地域導入への関心は平均4.0点(5点満点)で、多久聖廟・京町商店街・商店街等が連携スポットとして挙げられた。「リピーター化に適したコンテンツ」「大人も子どもも楽しめる」等の肯定的意見が多数得られた。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	②次年度に予算化を図り推進する
	令和8年度予算に多久市内を舞台とした周遊型マダーミステリー商品の開発費を計上し、観光協会・地域おこし協力隊・地元事業者との協働体制を構築する。2回目派遣においてシナリオ設計・動線設計の具体的支援を受け、令和8年3月末までに事業計画書を策定する。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	多久聖廟・西溪公園・京町商店街などの地域資源を組み合わせたICT周遊型イマージョ観光体験商品を商品化し、観光客の市内全域への回遊と滞在時間の延伸を実現する。地域住民や事業者が自ら運営に携わることで、観光振興と地域への誇りと愛着の醸成を同時に達成し、持続可能な観光と地域経済の活性化を最終目標とする。	

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/
掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可	

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

